

校内別室で不安を取り除く支援

不登校児童の状況

対象児童は、昨年度、校内別室を活用しながら一時は学級復帰をしていた。今年度に入り、1学期前半は学級で過ごすことができていたが、原因がはっきりしない不安から、学級や集団への参加が困難になり、不登校傾向になった。学級には入らず、校内別室で過ごすことを決めると、保護者と登校できるようになった。

具体的な取組

○安心できる居場所の提供

昨年度、午前中のみ開室していたが、登校時刻から6校時終了まで開室できるようにした。また、担当者が変わることに伴う当該児童の不安もあるため、支援員の他に、家庭と子供の支援員等が主に担当できるようにした。固定時間割を工夫するなど、校内体制を整えた。

○情報共有と関係機関との連携

週1回の生活指導連絡会で当該児童の状況を共有する機会を設けた。校内別室で過ごした様子は、支援員が記録し、全教員が把握できるようにした。SCとの面談や、必要な場合はSSW、教育支援室や教育相談所等の各関係機関につなげられるようにした。

○個別学習

当該児童と担任で課題を決め、漢字・計算ドリルは毎日取り組むことができるようにした。一人1台端末を活用して、ドリル学習への取組や、当該児童が希望すればオンラインで授業を受けられる体制も整えた。支援員による、学習の様子を見守りや学習支援を行った。



○専科教員からの働きかけ

図画工作科では、展覧会への参加を当該児童に促し、校内別室で作品づくりができるようにした。理科では、専科教員と簡単な実験をしたり、顕微鏡を使って観察を行ったりした。学習活動の中から、当該児童ができそうな物を選択できるようにした。



成果

支援員や教室配置の変更に対し、当該児童が不安を抱えていたため、担任や支援員とのコミュニケーションを重ねた。保護者や当該児童の不安を軽減させたことで、校内別室に毎日登校できるようになった。

課題

当該児童の学習が充実するよう支援員と担任が連携を図っていく。個別の学習が次の学習につながるよう、当該児童の学習内容に関するフィードバックを充実させていく。